

DOYU

F U K U S H I M A

2022.April/VOL.505/4月号

同友会3つの目的

- 会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強靱な経営体質をつくらう。
- 相互に人格を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけよう。
- 中小企業をとりまく経済環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させよう。

同友ふくしま

発行所/福島県中小企業家同友会 ● 〒963-8005 郡山市清水台1丁目3-8 郡山商工会議所会館5F ● 本部事務局/ TEL.024-934-3190 FAX.024-934-3089 ■ 発行責任者/会長 藤田光夫 ■ 編集責任者/広報推進委員会委員長 土屋朝子 ■ 定価200円

令和4年4月1日

DOYU 同友ふくしま

第505号(8)



▲荒川健吉さん

荒川社長は自社事業の定義は『地域資源発掘業』と『地域課題解決業』である」と言っています。その地

域の資源を発掘し、課題を解決することで明るい家庭が増え、地域社会が豊かになる。それがグループ全体のミッション達成のためです。やり方は違ってもいいですが、目的は一緒だということです。現在はいろいろな業種がグループにあることで助かっているそうです。

SDGsについては、ふるさと循環型リサイクルに取り組んでおられ、地域の物は地域でリサイクルすることで地域を豊かにする。また、地域が元気になるためにも積極的に障がい者を雇用し、活躍できる場所を作っています。そういった積み重ねで荒川産業は地域を元気にして行くのだと思います。

最後に、地域の資源を発掘することで、その地域で向き合っているからこそ地域に生かされ、地域を豊かにしていると感じました。有難うございました。(レポート) 伊藤 三二

田村支部
2月例会

2月15日(火)

『ポロ屋』『クス屋』に未来はあるのか？
そして、社員と共に取り組むSDGs

報告者 荒川産業株式会社 代表取締役社長 荒川健吉さん
(喜多方支部)

喜多方支部
2月例会

2月18日(金)

企業連携による
新たなまちづくりのかたち

特定地域づくり事業協同組合による
地域活性化プロジェクト
講師 荒川産業株式会社 取締役相談役 荒川洋二氏



▲荒川洋二氏

2月の喜多方支部例会は、荒川産業(株)取締役相談役の荒川洋二氏をお迎えし、「企業連携による新たなまちづくりの形」と題しまして、特定地域づくり事業協同組合についてお話して頂きました。

繁忙期の人手の確保や安定した雇用機会など、困り事の解消のひとつとして、この制度の活用があるそうです。制度の概要として、人口の急減に直面しており、人材確保に特に支援が必要な地区であること。対象事業としてはマルチワーカー(季節毎の労働需要等に応じて複数の事業者の事業に従事)の派遣、財政支援として組合運営費の1/2を市町村が(市町村負担の1/2を国庫補助)負担したそうです。そもそも荒川氏はなぜ、この制度にご興味をもたれたのか。聞くところによると「地域課題解決業」を掲げている荒川産業様にとって、人口減少や人手不足は喜多方地域にとっての喫緊の課題。商工会議所にてこの制度の話を聞いて、必ず地域に貢献できると考え、設立を決めたそうです。同友会会員より、たくさんのお問い合わせも寄せられて頂きましたが、地域への想いと挑戦することの大切さを教えていただいた学び多い例会となりました。

また、今回の例会は予定されていた講師の延期に伴い、数日前に急遽荒川氏にお断りいただき、誠に申し訳ありません。その中で素晴らしい例会報告に改めて感謝申し上げます。(レポート) 土屋(充孝)